

# 衆議院外務委員会ニュース

平成 27. 4. 8 第 189 回国会第 5 号

4 月 8 日（水）、第 5 回の委員会が開かれました。

## 1 緑の気候基金への拠出及びこれに伴う措置に関する法律案（内閣提出第 12 号）

- ・岸田外務大臣、中山外務副大臣、北村環境副大臣、菌浦外務大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行い、質疑を終局しました。
- ・採決を行った結果、全会一致をもって原案のとおり可決すべきものと決しました。  
（賛成一自民、民主、維新、公明、共産、生活）

（質疑者及び主な質疑内容）

### 島田佳和君（自民）

- ・我が国が緑の気候基金（G C F）に対して 15 億ドルの拠出を行う意義と、その拠出額を 15 億ドルとした根拠は何か。
- ・環境問題に対する我が国の貢献について、内外に積極的に情報発信していく必要があるのではないか。
- ・温室効果ガス排出量を急増させている中国や韓国に対して、政府はどのような働きかけを行っていくつもりか。

### 岡本三成君（公明）

- ・G C F が資金を供与する案件を選定する際の基準のガイドラインに、世界最高水準の技術の活用を盛り込むよう政府として主張すべきではないか。
- ・G C F 事務局の設置都市について、公募の結果、韓国の仁川に決定したが、公募の際に我が国が応募しなかった理由は何か。
- ・政府は、2020 年以降の温室効果ガス削減目標について、いつ頃までにどの程度の水準の目標を提出しようとしているのか。

### 寺田学君（民主）

- ・安倍政権の外交基本方針である国際協調主義に基づく「積極的平和主義」の具体的内容と過去の自民党政権との相違点は何か。
- ・「攻めの地球温暖化外交戦略」の具体的内容とその我が国の取組の現状はどうなっているのか。また、他国等からどのように評価されていると政府は認識しているのか。
- ・国際貢献に対する取組については、事後的に検証して今後活かす必要があると考えるが、2003 年のイラク戦争における我が国の対応に関する検証についての国民に対する説明は充分であると考えているのか。

### 小熊慎司君（維新）

- ・地球温暖化問題に対して我が国はどのようにリーダーシップを発揮していくつもりか。
- ・中国が G C F とは別に独自の基金を設立しようとしていることについて、政府はどのように対応していくのか。
- ・第 7 回太平洋島サミット（2015. 5 福島県）において、太平洋気候変動センターの建設をはじめとする我が国の気候変動への具体的な取組をアピールしていくべきではないか。

### 木内孝胤君（維新）

- ・G C F 理事会には、G C F の資金が効率的に運用されるよう資産運用等に深い知見を持った人物が参画すべきではないのか。
- ・為替レートの変動により実際の拠出額が当初設定した 15 億ドルよりもドル建てで目減りする可能性について、我が国の存在感という観点からどのように考えているのか。
- ・アジアインフラ投資銀行（A I I B）への参加に関して我が国の対応が遅れたのは、政府内における所管が明確でないことも一因ではないか。

### 島津幸広君（共産）

- ・我が国の地球温暖化問題に対する姿勢が N G O から批判されていることについて、岸田外務大臣はどのように考えているのか。
- ・インドネシア・パタンにおける石炭火力発電建設計画に国際協力銀行が温暖化対策の一環として融資することが批判を浴び、現地住民による反対運動も起きているが、政府はこの状況をどのように認識しているのか。
- ・我が国が G C F に拠出した資金が開発途上で石炭火力発電の建設に使われることはないのか。

## 玉 城 デニー君 (生活)

- ・国連気候変動枠組条約の下、温室効果ガス削減に向けて我が国はどのような途上国支援を行ってきたのか。
- ・「攻めの地球温暖化外交戦略」において掲げられたイノベーション、アプリケーション、パートナーシップの3本の柱について、現在どのような取組状況にあるのか。
- ・中国やロシアなどの新興国がG C Fへの拠出を表明していないことにG C Fの不安要素があるのではないか。